

ついに、世界観客動員数800万人超えを果たした 驚異の和太鼓パフォーマンス集団DRUM TAO。

北米・ヨーロッパツアーの成功をはじめオフ・ブロードウェイSOLD OUT、
東京常設劇場「万華響-MANGEKYO-」上演開始、
また権威ある米『Newsweek』誌が「日本を売り込む”顔”になる!」と絶賛。

最先端の「THE 日本エンターテインメント」は、新感覚ライブ音楽の創造にとどまることを知らない。



2017年のくらの公演から2年、DRUM TAOが東広島に帰ってきた。

Q1 結成25周年を迎え、昨年のパリ公演やポリショイバレエとの共演など、TAOの進化が止まりませんね。

A1 前年を超える新作を! ということを目標に結成当初から新作舞台制作を毎年続けており、この変化やスピード感を求めて何度も足を運んでくれるリピーターのお客様が多いです。

近年、東京オリンピックの気運が高まっていることも相まって、私達TAOを世界に発信したい「日本のエンターテインメントショー」として、海外の方向けに紹介される機会が格段に増えたと実感しています。パリやロシアでは日本文化交流年の開幕式で演奏し、特にモスクワでは日露両首脳の前に演奏するという大変名誉な機会を頂きました。国内では今年、全国ツアーと同時進行で、4月から東京・有楽町にて常設劇場「万華響-Mangekyo-」も本格始動しました。特に海外からのお客様には、日本の新たなナイトエンターテインメントとして楽しんでもらっています。

Q2 今回のプログラム「RHYTHM of TRIBE ~時空旅行記2~」の見どころ・楽しみ方を教えてください。

A2 「日本再発見!」をテーマとしたストーリー性溢れる舞台です。SAMURAIが日本の良さを求めて、現代から時空さえも超えて旅に出る—TAOのパフォーマンス、コシノジュンコ氏デザインの衣装、またプロジェクションマッピング、全ての要素を融合して表現します。

またRHYTHM of TRIBEとは“舞族”の奏でるリズム…特定のリズムや概念にとらわれない全く新しいTAOならではのリズム、という意味を含めています。和太鼓を中心とした和楽器を使用しながら、予測不可能なリズムや構成で未だかつてないステージに仕上がっています。

作品自体は2018年の制作作品ですが、各地からアンコールの熱い声を頂き、再演ツアーが実現しました。とは言ってもキャストも演出も新たに、より成熟した舞台をお届けします!

Q3 毎年大分の久住高原で開催される「夏フェス」も大好評ですね!

メンバーの皆さん自らが屋台に立ってフードを販売されるとか。メンバーによる和太鼓ワークショップあり、日替わりイベントあり、と舞台とはまた違ったTAOが楽しめそうです。

A3 年間で唯一TAOの本拠地「TAOの里/Grandioso」を一般開放するイベントです。フェスと聞くと複数アーティストが入れ替わりライブをやって…というイメージかもしれませんが、TAOの夏フェスは、とにかく「TAO三昧」です! TAOの音楽や舞台が生まれる場所で、盛大にホームパーティーを開くイメージで毎年開催しています。ですので、メンバー自ら全力でお客様をおもてなししますし、屋台の一つひとつもメンバー自らがアイデアを出し、プロデュース、そして自ら接客します!こんなに至近距離でお客様と触れ合えるのもここならではの。メンバーと写真を撮ったり、サインをもらったり、ミニライブでは歴代の懐かしの楽曲を演奏したり、和楽器を洋楽器に持ち替えてBANDを披露したり! メンバーにとっても特別なイベントです。もちろん、ちゃんとメインの最新LIVEもやりますよ! 笑

Q4 くららへご来場されるお客様へ、メッセージをお願いします。

A4 TAOと一緒に時空を超えて、思いっきり非日常を楽しんでください。2年前に来場して頂いた方も、初めての方も、新たなTAOの、そして日本の魅力を発見してもらえると嬉しいです! 見終わる頃には…叫ぶ? 笑う? 泣く? 皆さんそれぞれの方法で自由に楽しんでください! 会場でお待ちしています。

※公演日程・詳細については
チケット発売情報をご覧ください。

